第３章　地域探究同好会「地究」の活動（ワクワク未来考場）

地域にある資源を活用して地域活性化に資するプロジェクトを地域人材と協働で実施することを通して、当事者意識を持って地域の未来を創造することのできる人材を育成するために同好会を立ち上げた。コロナの影響で実際に活動を始める事ができたのは６月に入ってからであった。呼びかけに応じて１８名の参加者で始まった。今年度は７回の部会と地域のコンソーシアムの方々の協力のもとでいろいろな行事を行うことができた。

まず、同好会の拠点としてＵＤＣＳから三国町の空き家を一軒（吉野家）借りることできた。ただ、建物がかなり古いので掃除をしてリフォームから始めることになった。今年度はこの吉野家を利用した行事はあまりできなかったが、来年度以降に活動が盛んにできることを期待している。

第１回から第６回の同好会会議の記録を掲載する。

３－１　同好会会議記録

第１回

○日時・場所　６月１５日　講義室１－Ａ

○活動内容

・代表（部長・副部長を決める）

・ＬＩＮＥグループの設定

○記録

地域探究同好会のメンバーを募集したところ、１８名の希望者により同好会の発足となった。会長・副会長に３年生の生徒が名乗りをあげ、皆から同意を得られて決定した。また広報担当（インスタグラム・ツイッター）も決まった。その後、同好会の中の連絡のためにＬＩＮＥグループをつくった。

第２回

○日時・場所

６月２０日（土）　三国町　吉野家

○活動内容

吉野家の大掃除（参加メンバー１７名＋教員３名）

今後の活動内容についていろいろなアイディアを出す

○記録

本日は第２回の集まりで、実際に活動の拠点とする空き家の「吉野家」の大掃除を行なった。メンバーは今後の活動の秘密基地を作れるという感覚で、楽しそうに熱心に掃除に取り組んでいた。

その後、この同好会の愛称が「地究（ちきゅう)」に決まり、これからどんな活動がしたいか、どんな活動ができるかについて、いろいろなアイデアを出した。次回の集まりでは実現したいものを絞り、いくつかのグループを作って取り組んでいこうということになった。

第３回

○日時・場所

６月２７日（土）　三国町　吉野家

○活動内容

今後の活動を考える

○記録

前回の話し合いで以下のような案が出てきた。

①カフェ（スタバ)

②吉野家のリフォーム（ＤＩＹ）

③吉野家の中庭の整備

④各種の教室・・・書道，折り紙，百人一首，勉強会，茶道，マスク制作

⑤娯楽の提供・・・ボードゲーム，映画上映

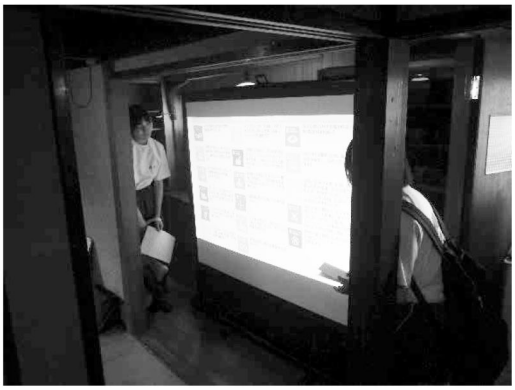
⑥まちなか散策・・・三国探検，スタンプラリー

⑦他の地域の見学・・・合宿，京都見学

⑧広報・・・インスタグラム

この中から今後の活動を吉野家で行うことを考えて吉野家のリフォーム（ＤＩＹ）や吉野家の中庭の整備をし、同好会の中に書道部や茶道部と兼部している人もいるので、「近辺の小学生や中学生対象とした書道や茶道の教室をする」という案がいいのではな

いかということになった。



第４回

○日時・場所

７月２８日（土）　三国町　吉野家

○活動内容

・吉野家のリフォーム（ＤＩＹ）

・三国探検および広報（インスタグラム）

・他の地域の見学･･･ 見学地の候補探し

○記録

・吉野家のリフォーム（ＤＩＹ）は１，２年生が中心に実行した。

鍵の修理･･･ ２名

照明器具･･･ ２名

ござ　　･･･ ２名

カーテン，ふすま･･･ ２名

中庭整備･･･ ３名

・三国探検および広報（インスタグラム）については３年生７名が実行した。

・他の地域の見学については選定できず、新型コロナウィルス感染症の関係で結局は実施できなかった。

第５回
○日時・場所
　９月１６日（水）　三国高校１－Ａ講義室
○活動内容
・三國湊フェアでの「空き家ｃａｆｅ」の企画および運営について
・１０月２５日（日）　１０：００～１４：００　兼田家
・吉野家のリフォーム（ＤＩＹ）
○記録
　三國湊フェアでの「空き家ｃａｆｅ」の企画および運営について話し合った。空き家の兼田家を使用して中でどのような催し物をするか、また、必要な物についてを考えた。また今後の日程についても確認した。
　第２回　　９月２３日（水）備品の申請
　第３回　１０月　３日（土）〔兼田家で実施〕
　第４回　１０月２４日（土）の午後〔兼田家で当日の準備〕（午前中は土曜補習）

第６回
○日時・場所
　９月２３日（水）　三国高校１－Ａ講義室
○活動内容
・新しい代表・副代表・広報担当者を決める。
・三國湊フェアでの「空き家ｃａｆｅ」の企画および運営について
○記録
　同好会の会長・副会長は２年生が名乗りをあげ、皆の同意を得られて決定した。また、広報担当者（インスタグラム・ツイッター）も決まった。
　それから、三國湊フェアでの「空き家ｃａｆｅ」の企画および運営についても話し合い確認を行った。
・今後の企画･運営会議の予定
　第３回　１０月　３日（土）　１３：００～１５：００〔兼田家で実施〕
　第４回　１０月２４日（土）　１４：００～１６：００〔兼田家で当日の準備〕
　第５回　１０月２５日（日）　　８：００～〔準備〕

第７回
○日時・場所
　２月１６日（火）　三国高校１－Ａ講義室
○活動内容
・書道部と茶道部が小・中学生・地域にお住まいの方と交流するスプリングイベントの企画運営。
・地域の大学生や一般の発表会に参加する。
○記録
　空き家の吉野家で本校書道部と茶道部が小・中学生・地域にお住まいの方と交流するスプリングイベントの企画運営を検討する。また、ＵＤＣＳで行われる福井特別支援学

校高等部　山崎さんの作品展示会（棒人間アート展）にも参加してもらう。
　日　時　３月２０日（土）〔春分の日〕１１：００～１５：００
　内　容　お茶会＆書道教室
　招待者　三国中（１・２年生)、三国北小（５・６年生)、地元にお住まいの方
　運　営　地究同好会メンバー、茶道部員、書道部員
　茶道部担当、書道部担当、会計、広報、チラシ作成、インスタグラムでの配信、
　棒人間アート展への誘導　の各係を決めた。

　地域の大学生や一般の発表会に参加する。
２月２６日（金）１８：００～　三国まちづくり合同発表会（会長、副会長）
３月　６日（土）１３：３０～　地域文化フォーラム発表（会長、副会長）

３－２　地域探究同好会「地究」の活動内容について

地元のコンソーシアムの方々の協力を得て行った同好会の活動はたくさん行うことができた。まさに「ワクワク未来考場」といえるたくさんの行事・イベントを企画したり、参加することができた。具体的には次の行事を行うことができた。

①　三国町雄島地区まちづくり協議会主催「海の贈り物」イベント企画

○日時・場所

８月２２日（土）　７：００～１４：００　三国サンセットビーチ

○活動内容

第１回スタッフ会議　７月２８日(火)１５：００～１６：３０　ＵＤＣＳ会議室〔３名〕
第２回スタッフ会議　８月　３日(月)１６：３０～１７：５０　１Ａ講義室〔　３名〕
第３回スタッフ会議　８月　７日(金)１３：３０～１５：００　１Ａ講義室〔１０名〕
第４回スタッフ会議　８月１８日(火)１４：００～１５：３０　１Ａ講義室〔１２名〕
第５回スタッフ会議　８月１８日(火)１９：３０～　雄島地区まちづくり協議会全体会議
〔代表生徒　３年１組　坪井君参加〕
「海からの贈り物２０２０」イベント　地域探究同好会企画（水鉄砲バトル）運営
〔１０名参加〕

○感　想

第１回のスタッフ会議から３名の生徒が参加し、海からの贈り物イベントで高校生企画として新しいイベントを開発することになった。３名のいろいろなアイデアの中から対戦型のゲームとして「水鉄砲バトル」を行うことになり、当日の運営委員で第３回から運営の仕方の打合せを行ってきた。第５回の雄島地区まちづくり協議会全体会議で代表の坪井君が提案を行い承認された。

当日は朝から真夏の太陽が照り付ける暑い日であったが、いくつかのイベントの最後を飾る「水鉄砲バトル」は大変好評であり、参加してくれた小学生だけでなく、地域の方々からも楽しい企画であったと好評をいただいた。来年度の実施がある場合は、今年度の反省を踏まえてより楽しめる企画を作れることを願う。

＜第１回企画会議＞

＜第２回企画会議＞

＜第３回企画会議＞

＜第４回企画会議＞

＜第５回企画会議（雄島地区まちづくり協議会）＞

＜海からの贈り物（８月２２日）当日＞

② 坂井市ＳＤＧｓチャッチフレーズ検討会

○日時・場所

１０月２１日（水）　１６：４０～１７：４０　１Ａ講義室

１０月２８日（水）　　〃　　〃

○活動内容

第１回　坂井市ＳＤＧｓ宣言の概要についての説明および意見発表

第２回　坂井市ＳＤＧｓキャッチフレーズ（案）の検討

○感　想

坂井市総合政策部企画情報課より坂井市のＳＤＧｓ宣言でのキャッチフレーズを作成するため高校生の意見を取り入れたいという提案をいただいた。地域探究同好会のメンバーで案を考えようということになり、第１回の会議で坂井市総合政策部企画情報課より北林様、斉藤様およびシティーセールス推進課より山田様に学校に来ていただき、坂井市が考えるＳＤＧｓの取り組みについて説明があった。

その後、地究メンバーが３班に分かれてキャッチフレーズを考え、９個の案が考えられた。第２回目の会議で地究メンバーでのそれぞれの案のブラッシュアップを行い、７つの案をまとめ坂井市に提案した。生徒の自由な発想で面白いキャッチフレーズが出てきたので、採用されることを願う。

＜第１回＞

＜第２回＞

③　三國湊フェア・空き家カフェ運営

○日時・場所

　１０月２５日（日）　１０：００～１４：００　三国町 兼田家

○活動内容

　１０月　３日（土）　１３：００～１５：００　兼田家清掃

　１０月２４日（土）　１３：００～１５：００　準備

　１０月２５日（日）　　８：３０～１６：００　本番および後始末

○感　想

　９月中旬に同窓会副会長の八十島さんと関係者の方から、三国の本町商店会主催の「三國湊フェア」に三国高校の地域探究同好会として空き家ｃａｆｅを出店してほしいという依頼を受けた。そこで、今年は三国高校の学校祭を地域の方々に見ていただく機会もなかったので、文化部の発表会も併せて実施することになった。空き家は商工会館前の兼田家をお借りすることになり、生徒が事前の清掃を行い、飾り付けをどのように行うかを考え準備を進めた。

　前日は生憎の雨で雨漏りが心配されたが、当日朝にも準備を行い本番を迎えることができた。１０時半からの吹奏楽部の演奏途中で雨が降りかけたが、何とか持ちこたえ琴部の演奏も外で実施することができた。また、午後からは天気も回復し書道部が書道パフォーマンスを行い好評であった。三国高校の校訓「心高かれ」を書いたものは、商工会館のロビーに飾られている。商工会館前で野菜等の販売が実施されていたが、２週間前の市よりもお客さんが少なく、せっかくの演奏会も琴部の演奏は観客が少なくて残念であった。来年実施される場合は演奏の順番を変えるなどの工夫が必要に思われる。

　地域探究同好会の空き家ｃａｆｅは、三国高校の紹介動画や学校祭の様子の動画を上映し、美術部の絵や写真部の写真も飾られ評判が良かった。地元のＦＢＣテレビも取材に訪れ、代表の石黒さんがインタビューに答えている様子が夕方のニュースに取り上げられていた。

　地域探究同好会の活動が地元の方々に少しずつ浸透してきている中で、今後も活動の拠点とする吉野家のリフォーム（ＤＩＹ）活動に、地元の方々にいろいろな面で協力いただけるものと期待している。

　＜準備＞

＜三國フェア１０月２５日当日＞

④　福井工業大学大学生との交流

○日時・場所

１１月１１日（水）　１６：３０～１７：３０　２－Ａ講義室

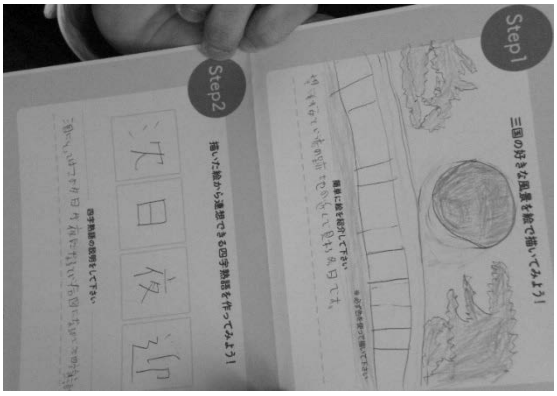
○活動内容

三国を観光客や住民に紹介するための風景や四字熟語を生徒と学生で考えた。

○感　想

始めに福井工業大学のデザイン学科の大学院生と大学生から、町を観光客だけでなく、そこに住んでいる住民に分かってもらうためのサインやキャッチコピーなどを研究しているという研究テーマの説明があった。そのあと、本校高校生のフレッシュな考えを取り入れたいので協力をお願いしたい旨の話をしてくれた。

まず､「三国の好きな風景を絵で描いてみよう」ということで一人一人の自分の頭に浮かぶ三国の風景を紙に描き、部員の中の３人が描いた風景の説明をした。その後「描いた絵から連想できる四字熟語をつくってみよう」ということで書いた絵から連想できる四字熟語を書いて、これも３人が説明をした。



⑤　武田製畳所見学

○日時・場所

１１月１４日（土）　１３：００～１４：００　武田製畳所

○活動内容

活動の拠点となる吉野家の畳が古く畳の入替えを行うために、三国町の武田製畳所に部員が見学に行き、畳の製作について学んだ。

○感　想

三国町新保にある武田製畳所にお願いし、吉野家のリフォームの１つとして生徒が畳を入れ替えるために、製畳方法を学ぶ工場見学を実施した。１・２年の男子生徒４名が参加し、畳の材料の用語や製作工程について講義を受け、実際の製作過程を学んだ。昔は手作業のため職人１人で多くても１日３枚ぐらいしか作れなかったが、現在は機械化が進み１人で２５枚ぐらい製作可能ということであった。

汎用の長方形の畳をただ敷き詰めるのではなく、１件１件の家に合わせた畳の作り方は生徒にとって大変勉強になったようだ。

⑥　西都建具店見学（１１月２１日）（１２月８日）

○日時・場所

１１月２１日（土）　１３：００～１４：３０　西都建具店

１２月　８日（火）　１４：３０～１５：５０　西都建具店

○活動内容

活動の拠点となる吉野家の襖の入替えを行うために、三国町の西都建具店に部員が見学に行き、襖の製作について学んだ。

○感　想

三国町西今市にある西都建具店にお願いし、吉野家のリフォームの１つとして生徒が襖を修繕するために、襖の作成や修繕方法を見学した。１年男子１名と２年女子２名が参加し、製作工程について講義を受けた。三国町でも建具店は１件だけとなり職人が減っていることが課題になっているとのことであった。

また、１２月８日の期末試験終了後には、１年男子２名と２年男子１名が参加し、吉野家の襖の解体を行い、どのように修繕するのかについて学んだ。襖の中にある古い下張りの紙を見て、古くからある吉野家の襖に歴史を感じることができた。

⑦ 吉野家リフォーム（１２月１２日）

○日時・場所

１２月１２日（土）　１３：００～１６：００　三国町　吉野家

○活動内容

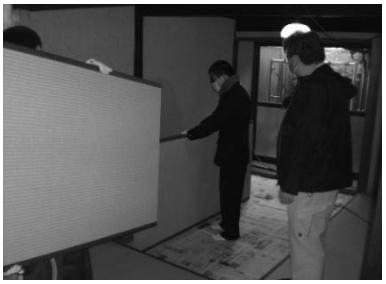
１３：００～１５：００　吉野家のリフォーム

１５：００～１６：００　今後の活動内容について考える

○感　想

１年男子３名，２年男子３名女子３名で吉野家のリフォームとして、１階の屋根瓦の修繕と畳の入替えの実習およびカーテンの業者探しを行った。当日は午前中から雨で瓦の修繕ができるか心配されたが、午後から雨が上がり予定通り作業を行うことができた。屋根の瓦修繕は２年生の男子が担当し、実際に２階から屋根に移り瓦の敷き詰めと雨漏り防止のための接着作業を体験した。１年生は畳の敷き詰め作業を行った。家のゆがみに合わせて畳がぴったりと入ることに驚きの様子であった。２年生の女子で中庭の窓のカーテンを入れるための業者探しと、書道部兼務のメンバーが書いてくれた地域探究同好会の看板にニスを塗る作業を行った。

どの作業も順調に終わり、最後の１時間でこれからの同好会の活動について話し合いを行った。結果、３月の中旬辺りに地元の小中学生を招待して、書道教室やお茶会を企画することになった。今後も同好会の活動が盛り上がっていくことを期待したい。



第４章　各教科での活動

各教科で地域のコンソーシアムや企業・知人を通して講師をお願いし、本校生徒に対して講義・見学をしていただいた。当初はすべての教科で講義をしていただく予定であったが、初年度であることやコロナ感染症の影響もあって、以下の家庭・理科・国語科の７つの講義・見学を行うことができた。いずれの講義・研修も生徒達は熱心に講師の話を聞いたり体験をしたりして、今後の進路の選択に大いに役だったものと思われる。

①　演　題　三国に伝わる伝統文化（刺し子）を学ぶ

○対　象

１年生　家庭総合

○日時・場所

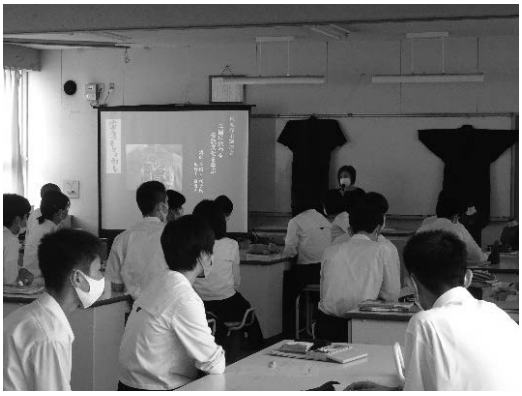
７月２１日（火）　５限目　第１被服室

○講師氏名

森岡千代子氏　　坂野上百恵氏　（安島モッコの会）

○内　容

三国町安島に古くから伝わる刺し子の技術を復活させ、若い世代へ伝承しようと活動している「安島モッコの会」代表のお二方から講演をしていただいた。かつて三国町安島では海女が海に出た男性への思いを込めて一針一針刺し子を刺していたことや、保温や補強のため幾何学模様を刺していた素晴らしい技術が７０年程前に途絶えてしまったこと、その技術を復活させた話などを語っていただいた。モッコ刺しを施した法被を羽織らせてもらったり、多くの作品を実際に手に取り見せていただいたりして、生徒は地域の伝統文化に興味をかきたてられたようだった。



②　演　題　水族館における海洋生物の調査保護や繁殖活動

○対　象

３年理系生物選択者３０名（３年１組５名、３年２組２５名）

○日時・場所

１０月６日（火）４限目　　三国高校　講義室３Ｃ

○講師氏名

鈴木　隆史　氏（越前松島水族館長）

○内　容

水族館の役割や越前松島水族館における調査保護活動・繁殖活動について環境問題にも触れながらお話をしていただいた。あわら市海岸でのアカウミガメの産卵では、生物の不思議さ、アオウミガメの繁殖で生まれたコガメの沖縄での放流では、生態系のバランスを崩さないことが、とても印象に残った。１時間の授業であったが、越前松島水族館の海洋生物の調査保護や繁殖活動のすばらしさに、生徒は海洋生物への興味関心を高めるとともに、生物の不思議さに感動していた。

③　研　修　水族館のバックヤード見学と職員による海洋生物の説明

○対　象

３年理系生物選択者３０名（３年１組５名、３年２組２５名）

○日時・場所

令和２年１０月１６日（木）１３：００～１４：２０　越前松島水族館

○講師・氏名

笹井　清二　氏　　足立　夏音　氏　　河野　大貴　氏（越前松島水族館職員）

○内　容

最初に笹井さんから水族館にいる海洋生物の概要について説明を受けた。その後、普段は見ることができない水族館の裏側を見学した。床がガラス張りの「さんごの海」水槽の裏側を見学し濾過装置についての解説を受けたり、予備水槽の魚やウミガメ・飼育研究棟を見学し解説を受けたりした。その後、３班（ウミガメ・コンペイトウ・マンボウ）に分かれて、それぞれの海洋生物を見学し、笹井さんからコンペイトウ、足立さんからウミガメ、河野さんからマンボウの飼育の苦労などのくわしい解説を受け、知識を深めた。

④　演　題　電池のしくみ（酸化還元）

○対　象

２年生（１組理系１７名）

○日程・場所

令和２年１１月２０日（火）　７限目　１－Ａ講義室

○講師氏名

田中　孝明　氏　（株式会社　田中化学研究所　理事　研究開発部長）

○内　容

最初に田中化学の敷地や年商などの会社の概要を説明していただいた後、会社で製造している電池の陽極を生徒に分かりやすく説明していただいた。現在ハイブリッド車などに搭載されているニッケル水素電池の説明を、教科書に出てくるボルタ電池と比較しながら図解入りのパワーポイントで説明していただいた。また、田中先生は海外に１００回以上出張されているので海外の事情に詳しく、各国の国民性を表現した言葉も披露していただき、本校の生徒にとって分かりやすい講義をしていただいた。

⑤　演　題　三国町の伝統文化（刺し子）について

対　象

３年３組　服飾文化の受講生徒　９名

〇日時・場所

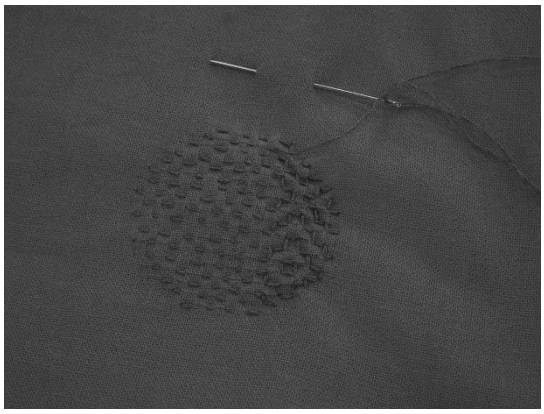
１０月５日（月）　２限目　　第１被服室

〇講師氏名

坂野上　百恵　氏（安島モッコの会代表）　田邊　みちこ　氏（安島モッコの会会員）

〇内　容

７月の講演に続いて、今回は三国町安島で古くから受け継がれてきた刺し子の技術を直接指導していただいた。生徒自身がデザインした形（丸や四角、クマなど）に刺し子を施した。先生の指示に従って横（直線）に糸を刺した後、縦に刺していくと模様が浮き出てきて、生徒は驚きつつも感動しながら針を進めていた。昔の人が保温や補強のために施した刺し子を体験し、地域の伝統文化の魅力について理解を深めることができた。



⑥　演　題　三国町の食についての理解を深める。

○対　象

２年３・４組　フードデザインの受講生徒　３４名

○日時・場所

１月２６日（火）　４限目　食物室

○講師氏名

増田　美愉氏（雄島漁業協同組合米ヶ脇支所　海女）

○内　容

福井県の無形民俗文化財（民俗技術）に認定されている「雄島海女の素潜り漁と加工技術」について、今年度海女としてデビューした増田氏に講演をしていただいた。主に、海女の仕事内容や三国の海で採れる海産物について話をしていただいた。春にはワカメ、夏にはアワビ、サザエ、ウニ漁があり、秋はサザエ、冬には岩ノリ漁をし、１年を通し多様な海産物が採れることを学んだ。自然相手の仕事なので命がけで海に潜り、その後は手間のかかる下処理をする。密漁監視や人足（稚貝放流、草刈など）も海女の仕事であることを知った。講義の後、粉ワカメと岩ノリの素材をいかしたおいしい食べ方も教わり、試食した。地元の海で採れる食材を知るだけでなく、採取方法や加工法についても学び、地元の海産物の魅力や価値についても理解を深めることができた。

〇生徒の感想

・海女さんは海に潜ってサザエなどを採る仕事だと思っていたが、採ったものの加工をしたり、密漁の監視をするなど大変だと思った。
・海女さんが身近にいるということに驚きました。潜る時間が長くて１分と聞いてびっくりしました。
・朝起きて、旗を確認して出港するのが面白いと思った。
・季節ごとに１日の仕事内容が変わることに驚きました。
・男の人が海女になれないのが不思議でした。
・三国に住んでいて海女さんを見かけることがありましたが、夏しか潜らないと思っていました。海水が冷たい冬でも漁に出ることを知り、商品の値段が高くなるのは、厳しい環境の中で働く海女さんの仕事の価値が高いからだと思いました。
・試食すると海の味がして、とてもおいしかったです。

⑦　演　題　作家高見順と三国との関わりについて

○対　象

２年３組・４組生徒（２年生文系Ⅱ系列）

○日時・場所

（１）２月３日（水）３限目　　緑陵会館大ホール

（２）２月５日（金）６限目　　緑陵会館大ホール

○講師氏名

上出　純宏氏　（龍翔館前館長）

○内　容

（１）港町みくにのかがやき

三国生まれの文学者である高見順は代表作「荒磯」において「おれは荒磯の男だ」と詠んでいる。しかし、高見が三国で過ごしたのは誕生から１歳半までの幼少期のみで、成長後も数回しか帰郷していない。高見は父・彭次郎（福井県令）の庶子として生を受け、父を追って幼少期に上京する。母・古代は針子としては優秀だったものの家事・育児には無頓着で、高見は上京後も三国生まれの祖母の世話で育った。故郷と隔絶されて半生を過ごしたこと、都会にいながら三国の色を残す環境で育ったこと、そうした生い立ちのギャップが五十路を迎えてからの帰郷で唐突に理解されたであろうことが、高見をして「荒磯」を詠ませ、彼を三国の詩人としたのではないか。

（２）文学の町　みくに

高見順の作品「われは草なり」は長く教科書にも掲載されて親しまれてきた。事前課題の生徒の感想と専門誌掲載の批評家の評を比べると、高校生も「われは草なり」の核心をたしかに感じ取っている。高見は若くして才能を開花させた詩人で、「高見順の時代」という評価までも生まれた。才能も学識もありながら庶民的で平易な詩を多く残し、「われは草なり」や自身の闘病生活の記録とともに発表された「死の淵から」はその代表である。そんな高見の才を引き継ぎ、三国からは日本を代表する文学者・荒川洋治も生まれている。三国の文学的・文学的土壌は一考に値するものである。

三国の風土・文学への入門として貴重な機会になった。一方、知識豊富な講師の多彩な話題展開について行けない生徒が多かった。事前指導のあり方、通常授業との関連性の確保、講師との緊密な連絡を工夫していく必要がある。また、地域人材の活用にあたっては、自らに役立つものを見つけ出し、学びとる力を日頃から育成しておく必要があると感じた。

第５章　事業を支援する運営委員会等の報告

１～３年生の総合的な探究（三高地域魅力化プロジェクト）やワクワク未来考場を担う地域探究同好会「地究」の事業を円滑に進めるために、本校ではコンソーシアムの方や地域協働支援員・カリキュラムマネジャー・運営委員の人々などと多くの会議を行った。おかげでたくさんの事業を有意義に進めることができた。コロナの影響でオンラインを用いて行った会議もたくさんあった。その中で記録を取った会議等について以下に掲載する。

５－１　総合的な探究の時間の外部講師とのミーティング

① 日　時　令和２年５月２９日（金）

② 場　所　福井県立三国高等学校　会議室

③ 出席者

東京都市大学　中島　伸　氏（オンライン出席）

三国高校事務局長　竹澤浩樹

三国高校事務局１年担当　大岡幹生

三国高校事務局２年担当　勝山智央　牧田祥代

④ 打合せ内容

６月１６日（火）に予定されている総合の授業の打ち合わせ

６限　１年総合　地域探究活動を行う際のまちづくりの導入的な講義

７限　２年総合　地域の問題に対する解決策の提言を行うための講義

〔各クラスごとにＺｏｏｍを利用して講師とのオンライン講義〕

【感想】

コロナ感染対策のため緊急事態宣言が出され、講師に来校してもらっての講演会が不可能となった。その代わりに各教室と講師の先生をオンラインで繋ぎ、講演を実施することになった。

今回、初めて講師の先生との打ち合わせをオンラインで行うことになったが、メールでのやり取りよりもお互いの顔が見えて、意思疎通がしやすく感じられた。今後も積極的にオンラインの会議を実施していきたい。

５－２　地域協働プロジェクト推進室会議

①　日　時　令和２年６月２３日

②　場　所　福井県立三国高等学校　会議室

③　出席者　地域協働学習実施支援員　福井銀行三国支店 川上貴義　氏

コンソーシアムメンバー　坂井市総合政策課長　三上寛司　氏

コンソーシアムメンバー　坂井市総合政策課 渡邉雄大 氏

コンソーシアムメンバー　ＵＤＣＳ 浜田剛 氏

運営指導委員　金沢大学 松田淑子 氏（オンライン出席）

外部講師　東京都市大学 中島伸 氏　射和沙季 氏（オンライン出席）

東京都市大学学生　２名（オンライン出席）

三国高校校長	上山康一郎	三国高校教頭	冨澤宏二
三国高校事務局長	竹澤浩樹	三国高校事務局	藤田正人
三国高校事務局	藤田博雅	三国高校事務局	大岡幹生
三国高校事務局	池越　広	三国高校事務局	杉田佳子

④　進　行

（ア）校長　挨拶

（イ）事業説明

竹澤　　令和２年度１・２・３年の総合的な探究の時間の年間計画の説明

大岡　　１年生の総合の説明

射和氏　１年生の講演の趣旨説明

【各委員より指導・助言、意見交換】

松田氏

総合の時間の前半は、オンラインがうまく繋がらなくて見ることができず後半から見たのだが、教室で１年生全員がオンラインで、東京の講師の方の講話を聞けるなんてチャレンジですごいと思った。生徒は落ち着いて聞いていて、この方がいいなと思った。講師が東京都市大の学生ということでびっくりした。１年生にアクションを起こさせるために重要だと感じた。

２年生は１年生の空き家のプロジェクトを踏まえ、地域と繋がるアクションを起こせたらいい。３年生は、まとめとして地域の魅力化に繋がるといいと思う。

冨澤

１年から２年生の提言をアクションにということで竹澤から説明をする。

竹澤

今年は地域探究同好会を立ち上げ、１～３年の１８人が登録した。三国地域の発展にどう貢献していくか、いろいろと取り組みを考えていきたい。

中島氏

三国高校の前三国高校校長の斉川先生から、高校生に三国の地域の空き家などの問題を考

えさせたいというお話を頂いて協力をさせて頂いている。三国高校では、１年生では三国の空き家をいかに活用するかを考え、２年生では範囲を広げて坂井地区の問題を考えて坂井市議会とも連携している。従来から坂井地区はＵＤＣＳなどの組織が立ち上がっていて、地域の問題を考えてきたが高校生にも三国の町づくりに参加させることは大変いいことである。高校生に、空き家の魅力を発見させるサポートをできたらいいなと考えている。同好会ができたということだが、三国の発展のために現在三国に住んでいる住民と高校生が話し合うこともできたらいいなと思っている。

渡邉氏

坂井市の三国地区の再開発を担当している。１年生は講師の話を熱心に聞いており、２年生も三国以外の地区の再開発の事例研究をしっかりやっており感心した。坂井市も全面的に協力していきたい。

三上氏

かつて北前船で栄えた三国を是非復活させたいと考えている。中島先生にはＵＤＣＳを通じていろいろお手伝いをしていただいており感謝している。２・３年前より三国高校の高校生が、いろいろと議会で提言をしていただいているが、なかなか実現ができていないのが心苦しい。

タイミングが合えば実現も可能だと思っている。我々坂井市もこういう取り組みにはしっかり協力をしていきたい。県外の大学へ進学する、あるいは就職する生徒にもこのような事業を踏まえて、地元坂井市の発展に繋がるような取り組みを考えて貢献して欲しい。

浜田氏

自分自身が三国高校の卒業生である。昨日、地域探究同好会の生徒の活動を見て感動した。また、人数が１８人もいるということで、これからが楽しみである。作業した空き家の近くに住む平野写真館の主人も感心していた。今後の活躍を期待している。いろいろな注文も聞いていきたい。

松田氏

三国高校に素敵な応援団がこんなにたくさんいることに驚いたのと同時に、今後に大きな期待を持つことができた。しっかりしたアクションを起こして欲しい。特に、中島先生が提供した地域の人と繋がりができる空き家を拠点とした同好会の活動に期待が持てる。三国の地域をじかに歩いて三国の人と話をして、アクションをおこし、坂井市議会に取り上げられるような取り組みができたらいいなと思う。他の地区の高校生も同じような取り組みをしている。例えば、富士市は多くの高校生に市役所の職員みたいな感じで、自分で町に出て地域の人と話をして感じたことを市役所に提言する事業をしているので参考になるのではないか。

都市大学学生Ａ

多くの人達が坂井市の発展に協力していることに驚いた。４月から参加させていただいてありがたいと思った。

都市大学学生Ｂ
　高校生に町の未来を考えさせることは大変おもしろくいいことだと思った。自分が高校生の時にこんな取り組みがあったらよかったのにと思った。

中島氏
　今年もいろいろな取り組みができそうで楽しみであり、期待をしている。自分が東京から三国に行けないのが残念でさみしい。ＵＤＣＳの浜田さんを中心に活躍をしていって欲しい。

竹澤　（地域探究同好会についての説明）

５－３　第１回運営指導委員会

①　日　時　　令和２年１０月６日（火）１５：１５～１６：１５

②　場　所　　福井県立三国高等学校　会議室

③　出席者　　福井県経営者協会　　峠岡伸行 氏　　金沢大学教授　　松田淑子 氏
　　共愛学園前橋国際大学　大森昭生 氏（オンライン出席）
　　坂井市教育長　　川元利夫 氏
　　高校教育課参事　　大正公丹子　氏　　高校教育課　　前田周子 氏
　　三国高校校長　　上山康一郎　　三国高校教頭　　冨澤宏二
　　三国高校事務局長　竹澤浩樹　　三国高校事務局　藤田正人
　　三国高校事務局　　藤田博雅　　三国高校事務局　大岡幹生
　　三国高校事務局　　勝山智央　　三国高校事務局　池越　広
　　三国高校事務局　　杉田佳子

④　進　行

（ア）あいさつ
　　三国高等学校長
　　教育庁高校教育課参事（地域人材育成）

（イ）出席者紹介　（教頭）

（ウ）事業説明
　・本事業の研究概要について（県教委）
　・実践校の取組みについて（三国高校）
　(a)総合的な探究の時間（１年、２年、３年）
　(b)地域探究同好会
　(c)令和３年度からの学校設定科目

（エ）各委員より指導・助言、意見交換

【大正参事挨拶】

委員長の松田先生をはじめ４人の委員さんにご出席頂き感謝する。三国高校は、今年度「地域との協働事業」に採択された全国の６校の内の１つである。地域のコミュニティデザイナーを育てることなどを目標にし、地域との連携を主に活動を進めている。今日は、委員の方の忌憚のないご意見をいただき、今後の三国高校の研究開発と研究開発に役立てて欲しい。

【本事業の研究概要について（県教委前田主任）】

積極的な学びと社会体験をもとに、活動を進め、地域課題の解決に繋がってほしい。地域を創造する人材を育成していきたい。地域資源を活かし、地域を活性化し、明るい未来を創造できる人材を育成していくカリキュラムを開発していきたい。

【各委員より指導・助言、意見交換】

松田氏

コロナ下で活動が自粛されている中、三国高校は頑張っている。ブラッシュアップしている。今までの活動を振り返ってよくなった点と悪くなった点を教えて頂きたい。

大岡
　今年から１年生を担当している。この前、２年生の生徒から１年生に直接アドバイスをしてもらった。１年生は現実的だが、少し冷めているような印象もある。

勝山
　昨年の１年生を引き続き２年生になっても受け持っている。良い点は、２年生全員が地域を活性化するというはっきりした目標を持っているので指導がしやすい点である。悪い点は読む力や表現力が弱いのが課題である。これからの活動を通して地域の人達に受け入れていただけるか、地域の人と繋がっていけるかが課題である。

池越
　私は、今の学年を３年生になってから初めて受け持っている。この学年は１・２年生を通して空き家の再生や坂井市の活性化を探る取り組みを熱心に取り組んできた。今それをどうまとめ、下級生のために役立てるかが課題である。

松田氏
　地域の活性化の取り組みに関しては、年を重ねる毎に努力の跡が見られる。授業を見させて頂き、実感することが大事だなと思った。生徒には、きれいに表現しようという気持ちが見られるのがちょっと気になる。失敗を恐れずに泥臭い面を出して欲しい。生徒の生き生きとしたエネルギッシュな面を出して欲しい。それには先生方もチャレンジャーでなければならない。生徒の意見を聞き、尊重しながら取り組みを進めて欲しい。３年生は進路が大事であるが、ＷＡＮＴの部分を強く出して欲しい。同好会も望ましい形で取り組んでいる。しっかりやっている。

大森氏
　取り組みの流れが素晴らしい。三国高校の教育目標に合致した取り組みをしている。「地域の未来は私が作る」という生徒を育てて欲しい。これができると素晴らしく、みんなの幸せに繋がる。授業を見て、三国高校は組織的に動いていると思う。担任の先生方が共通した理解の基に動いて取り組みを進めている。今後もＷＡＮＴ、ＮＥＥＤ、ＤＯ、ＣＡＮの精神で取り組んで欲しい。生徒には、１回失敗させる方が、今後の力になるかもしれない。２年生のルーブリックの評価の方法については感心し、私も勉強になった。カリキュラムマネジメントも大切である。自分で自分を評価し、可視化する。上級生が下級生を教えていく。こういう取り組みができると良い。どの大学・会社にいくか決めるときには「なぜ」という視点を身につけているのであれば、面接でもバッチリである。これが進路の決定につながる。カリキュラムマネジメントも踏まえていくといいと思う。

川元氏
　三国高校の地域との協力事業が全国の６校の中に入っているというのを聞いてすごいと思った。高校教育課の指導の賜物と思われる。生徒が一生懸命頑張って取り組んでいる姿を見てうれしく思う。大学入試にも繋がる。 子供達がこの事業を通して坂井市の地域を好きになって欲しい。地域の課題を自ら見つけて解決策を見いだして欲しい。そして故郷の坂井市に

戻ってきて欲しい。そういう子供が育つ働きかけをして欲しい。

峠岡氏

高志高校のＳＧＨで高校に関係してきた。大学に入る前から、地域を考える機会を増やして欲しい。産業も入れて欲しい。「地域に戻ってどの産業を呼ぼう」と考える力を身につけて欲しい。最近の大学生は、時間の使い方が下手だ。高校でこのような取り組みをやっていると時間の使い方が上手になるのではないか。

コミュニティデザイナーの取り組みははっきり言って重いと思う。私は福井大学とインターンシップなどを通して産業界との連携を取り持っているが、いろいろと地域の人の意見を取り入れて考えて欲しい。

地域の人へインタビューをするなどの生徒の体験を通して地域課題の解決をはかる取り組みをし、文部科学省の掲げる目標を達成して欲しい。課題解決の学習は非常に大事だ。「なぜそうなるのか」を考える能力を身につけることが大事である。

何でも基準を考えることは難しい。高校だけでなく大学でも必要とされている能力であり、課題解決学習プログラムの柱である。

竹澤

課題解決の能力を身につける学習は、来年度から行われる学校設定科目を中心に生徒に身につけさせたいと思っている。

５－４　校内授業研究会（教員自主研究グループ第３回研究会）

①　期　日　　令和２年１０月２７日（火）

②　場　所　　福井県立三国高等学校会議室

③　出席者　　金沢大学教授　　松田淑子 氏

三国高校校長	上山康一郎	三国高校教頭	冨澤宏二
三国高校事務局長	竹澤浩樹	三国高校事務局	藤田正人
三国高校事務局	藤田博雅	三国高校３年学年主任	笹木八州彦
三国高校２年学年主任	平木寿治	三国高校１年学年主任	大辻尚子
三国高校事務局	大岡幹生	三国高校事務局	勝山智央
三国高校事務局	池越　広		

④　研究テーマ　生徒が生き生きと学習するための「探究」はどうあるべきか

【各委員より指導・助言、意見交換】

竹澤

今まで総合をやってみた中で、問題点をざっくばらんに討論をしていきたい。１・２年生を中心に話していきたい。

大岡

２学期からグループに分かれ、アイデアを出し合うようにしてきた。今度ポスターのコンペと発表会をする予定であるが、各グループともある程度固まってきたようだ。細かく案を練っているグループもある。ＵＤＣＳの人達とも話をしている。

勝山

今日初めて、個人レポートの内容が似ている者どうしで２～４人のグループを作って話し合った。総じて楽しくやっていたようだ。すり合わせを細かくやっていたグループや前向きな発言をするグループもあった。これからどう修正するかという過程で力がついていくのではないか。

竹澤

１組は結構内容を深堀りしているが、２～４組は浅い気がした。松田先生にアドバイスと感想をお願いしたい。

松田氏

前回はお客さんが多かったせいか、生徒の様子が大人しすぎる印象があったが、今日は元気がよかった。大岡先生、勝山先生の対応にも好印象を持った。いい所までいっている。もう少しグッとつめていく力、深掘りしていく力をつけられるかが課題である。ある高校の副校長から「生徒のハートに火をつけろ」という言葉を学んだ。「何をしたいのか」を明確にして行動する力をつけられるかが勝負どころである。

力をつけるには２つのパターンがある。１つは、先生自身がこういう風にしたいと率先して進んでいき、生徒は迷うが、中には先生の意をくんで行動する者が出てきてみんなで盛り上がっていくパターン。もう１つは、地元の有力な人を引き会わせてその人にゆだねるパタ

ーン。富山の砺波高校では、地元の人に話をしてもらった所、それを全部記録して、自分達のしたいことにつなげていった。この生徒達はこの人に惚れたようだ。いい人とつながったようだ。大人と話し合う経験を子供は喜ぶ。１回こっきりではなく。複数回、数ヶ月間に渡って子供達と関わってくれる人がよい。こんなエネルギーを生徒達に与えてくれる人がいい。子供の本気を引き出してくれる人がいい。「三国のために何をしたらいいか」という根っこの所を引き出せるかどうかの岐路である。

大岡
　いろいろ難しいなと思っている。中島先生とも昨日話をした。他にもＵＤＣＳなどいろいろな人と話をしてサポートを受けているが、微妙なずれを感じている。１１月のポスターのコンペ後に地域の人に再度入っていただけないものかと思っている。

松田氏
　そういう風に考える先生の姿勢がいい。苦悩している大岡先生の姿は生徒に響いていると思う。先生の感じている「辛さ」が生徒を動かしている。私も中島先生と繋がっていろいろとエネルギーをもらっている。

竹澤
　２年生もグループで話し合いを始めた。グループ全部に人をつけるということは不可能のように思う。他校で例はないか。

松田氏
　例えば大学生を捜すというのはどうか。卒業生でもいい。ある高校では小学生とも繋がっている。最初から全部のグループに人を付けようと思うのではなく、できる所からやってみたらどうだろう。それから１回だけ来てもらうのではなく。「複数回来てください」と頼むとその人には責任感がでてくる。それから、クラスを解いてグループをシャッフルするといいかもしれない。似たようなテーマのグループどうしでクロスセッションのような形で。今日の生徒達は頑張っていた。

竹澤
　本校はこれで空き家をテーマにしてきたのは３年目である。他に松田先生に質問はないか。

大岡
　今年は飲食店を出さないという制約で始めている。季節毎に写真を撮ることをテーマにしているグループもあるし、駄菓子やイチゴ飴を出して、小学生と交流したいというグループもある。今後どのように取り組んでいったらいいのか。

勝山
　空き家を民宿のような宿にして三国を観光してもらおうというグループもあるし、空き家を買ってもらうのに、手続きを代行して手助けできないかということを考えているグループもある。２年生は１年間空き家をテーマにしてきたのでその経験を基に空き家を使うグルー

プが多い。環境に手をつけるグループは残念ながらない。このままでいいのか。

松田氏
　大岡先生、勝山先生は生徒を大変よく見ている。これだけ生徒のグループの内容を答えられる先生は少ない。

竹澤
　本校の担任は１つ１つのグループの内容をよく把握している。１年・２年の学年主任の先生方には意見はないか。

平木
　優秀な担任がいてありがたい。空き家の実践が冬で、集まる地元の人が少ないのが非常に残念である。せっかく生徒達は頑張ってやっても、評価してくれる人々が少なくて張り合いがない。夏に行うとか、チャンスを増やすとかできないものか。

大辻
　本日２つのグループのプレゼンを見た。目的がはっきりしているグループとちぐはぐなグループで差が歴然としていた。空き家につながっていないと思うグループにどうアドバイスしていいかが初めてなので分からない。

松田氏
　そのまま「どうしてつながるの」とか「何でそうなるの」とか感じたままの質問を生徒にぶつけていいとおもう。

竹澤
　次に学校設定科目の問題について松田先生はどう思われるか。

松田氏
　なるべくインプットは少なくして欲しい。学問ではない。生徒が自ら動いて行けるようにして欲しい。３年生に関しては、後半は振り返りを重視して欲しい。個人でレポートを書くような作業がいいと思う。自分のストーリー、自分史を作って欲しい。それで大学の推薦入試などに臨めればよい。自分自身の進路に結びつけて欲しい。それを自分で読んで、感想を書くだけでいい。研究報告書ではないので、自分の失敗したことなども含めて自分の歴史をしっかり残すことが大事である。

勝山
　毎回振り返りをしているが、どういう風に声かけをしてやったらいいのか。

松田氏
　先ほどから出ている先生方の声かけでいいのではないか。「どういう風におもしろかったのか？」「なんでそうなるの？」とか聞くといい。自然と生徒の思考力がつく。自分自身を

振り返っていける。

池越

２年１組の総合の授業を見たが、アイデアの方法論に偏っている。訴えたいことがわからない。軸、根幹がなく、薄っぺらな感じがした。これをしたいという熱が伝わってこない。もっと深く掘り下げることが必要である。

５－５　福井県立三国高等学校・ＵＤＣＳアーバンデザインセンター坂井
　　地域との協働による高等学校教育改革事業に関する連携協定締結式

①　日　時　１１月２３日（月）　１３：３０～

②　場　所　ＵＤＣＳアーバンデザインセンター坂井

③　次　第

開　式

挨　拶

福井県立三国高等学校　校長　　上山康一郎

来賓祝辞

坂井市総合政策部　次長　　三上寛司　様

福井県立三国高等学校同窓会　会長　大和久米登　様

協定の経緯ならびに協定の概要説明

福井県立三国高等学校 教頭　　冨澤宏二

連結協定締結

記念撮影

挨　拶

一般社団法人アーバンデザインセンター坂井　代表理事　西村　忠　様

連携事業説明

教諭　竹澤　浩樹

取り組み紹介

三国地域探究同好会

質疑応答

閉　会

④　感　想

日頃お世話になっているＵＤＣＳ・地元のコンソーシアム方々に来ていただき、盛大に締結式を行うことができた。あいにくの雨模様だったが、記念写真を撮るときにはちょうどやんで外で記念写真をとることができた。三国高校の地域探究同好会の会長・副会長が、出席者に三国高校同好会の今までの取り組みをパワーポイントを使って出席者に丁寧に説明をした。

５－６　第２回運営指導委員会

①　日　時　　令和３年２月２日（火）１５：１５～１６：２０

②　場　所　　福井県立三国高等学校　会議室

③　出席者　　福井県経営者協会　　峠岡伸行 氏　　金沢大学教授　　松田淑子 氏
　　共愛学園前橋国際大学　大森昭生 氏
　　坂井市教育長　　川元利夫 氏（欠席）
　　高校教育課参事　　大正公丹子　氏　　高校教育課　　前田周子 氏
　　三国高校校長　　上山康一郎　　三国高校教頭　　冨澤宏二
　　三国高校事務局長　竹澤浩樹　　三国高校事務局　藤田正人
　　三国高校事務局　　藤田博雅　　三国高校事務局　大岡幹生
　　三国高校事務局　　勝山智央　　三国高校事務局　池越　広
　　三国高校事務局　　杉田佳子

④　進　行

（ア）あいさつ
　　三国高等学校長
　　教育庁高校教育課参事（地域人材育成）

（イ）出席者紹介　（教頭）

（ウ）事業説明
　　実践校の取組みについて（三国高校）
　　(a)総合的な探究の時間（１年、２年、３年）
　　(b)地域探究同好会
　　(c)コミュニティデザイナーの資格認定

（エ）各委員より指導・助言、意見交換

【学校長挨拶】

生徒は坂井市の議員さんや職員の見ている中での発表で緊張したであろう。その影響で生徒の心中は何かが変化していっただろう。これからも継続してこの取り組みを進めていきたい。忌憚のないご意見をお願いをいただき、今後の活動にいかしたい。

【大正参事挨拶】

コミュニティデザイナーの認定を目指し、コロナの中で総合学習を進めていくのは大変だと思うが高校教育課でも期待をしている。運営委員の方にも是非忌憚のないご意見をお願いしたい。この会議のアドバイスをもとに三国高校の今後の取り組みを改善して欲しい。地域の問題を自分事として活動する生徒を増やして欲しい。

【各委員より指導・助言、意見交換】

松田氏

地域との連携がうまくいっているようである。これからものすごく期待をされている。発表を見てすごいなと思った。大岡先生、この前以降、生徒の様子は変わってきたか。

大岡
　自分から動き出す生徒が多くなってきたようだ。１２月の発表会で地元の人が応援してくれたり、手伝ってくださったりして自分に自信がついたようだ。

松田氏
　この前の中間報告よりもずっとよくなっているようだ。２年生になると飽き足りなくなる生徒がでてくるのではないか。もっと生徒が具体的なアクションを起こして欲しい。例えば、観光ツアーを考えてもいいのでは。アドバイザーの方から「コロナの影響で修学旅行ができない時だから、代わりに感染のリスクの小さい三国の方に来てもらう」というような案を考えたらと言われた班もある。こういう取り組みを積み上げていって欲しい。

竹澤
　これからレポートを作成していく中で考えさせていきたい。

大森氏
　三国の町を散策したが歴史や文化の面で大変興味深いものがたくさんあることが分かった。生徒に対して三国の地域に対するインプットがもっと多くあっていい。学校設定科目にも期待をしている。インプットのない提案では不十分である。三国でしかできないような提案をして欲しい。
　発表を聞いていると、大人の視点と生徒の柔軟な考え方による視点の違いがよく分かる。ＳＳＨやＳＧＨをいくつか見ているが、どれも年度を経ることに良くなっている。三国高校にも大いに期待している。それからもう少し提案にリアリティーが欲しい。これくらい立派にできるならもう少し上を目指して欲しい。ＳＮＳ上で活動を進めることなどの活動があってもいいのでは。財政的な裏付けがあるともっといい。
　三国高校の取り組みは、県と市がタッグをしっかり組んで行っていて県立高校では全国的にもまれな存在であろう。学校設定科目でも文系・理系と分けて取り組むのではなく、両方を取り込んで進む形がよい。デザインを専攻する生徒が工学・理学の裏付けを必要とするのと同じである。コミュニティデザイナーの認定はどういう能力が必要かを計る尺度が大事なのではないか。また、総合探究活動に取り組んだ生徒自身の自己評価が大切で、自分はこれができるようになったという自信を計れるような認定をして欲しい。

竹澤
　私も生徒にリアリティーが少ないと感じている。生徒の中には三国をよく知らない子が結構いる。来年度から行われる学校設定科目で地域に関する知識を入れることが大事だと思っている。

峠岡氏
　毎年続けていってブラッシュアップして欲しい。「こんな発想があった」とか、探究のテーマを振り返って研究をさらにレベルアップして欲しい。研究レポートの蓄積が大事である。福井大学の発表をこの前見たが、残念ながら答えを出すことにやっきになっていてそれが目標となってしまっている。本当に有効な解決策をひねり出すことは生徒には無理であろう。

本質は何なのかを追求できる力が欲しい。生徒の発表を見ていると三国の住民を増やすとか観光客を増やすという案が多いのだが、それでは地域の活性化の本質を見つめることになっていない。本質を見つめられるようになることが大事である。

最近の生徒は素直であるが考えない。原因を考えられない生徒が多い。いろいろな経験をしていないということもあるが、深く本質を考えていく力が大事である。コミュニティデザイナーの資格認定はむずかしい。自分は自信を持ってコミュニティデザイナーであると名乗れる人がいいのではないか。

竹澤

コミュニティデザイナーの資格認定は、当初は皆勤賞のようにたくさん出すつもりで考えていたが、今は慎重に考えていった方がいいという方向である。

大森氏

生徒の変容が見て取れるように可視化することが必要だ。自分で「自分はこれだけできた。ここまでいけた」と自信を持って実感ができる資格であって欲しい。

松田氏

２年生の発表の中で評価表を見せていただいたが、これでいいのだろうか。もっとよく検討をして欲しい。きれいな提言ではなくてもいいから、生徒自身がしっかり考えたということを評価して欲しい。

竹澤

自己評価を重視するとういうことか。

大森氏

自己評価が大事であることは私も賛成である。教育成果と学習成果は違う。教育成果は先生から見た成果になるが、学習成果は生徒自身が感じている成果である。先生にとっては生徒の学習成果はなかなか分からない。自分で、「自分は十分な学習成果を出した」と思っているのであればそれでいいのではないのか。自己評価というものはとてもいい学習成果を計る尺度である。

竹澤

１年生でも自己評価をし、２年生でも自己評価をし、３年生になっても自己評価をしてみて、それをもとに認定をするべきだということか。コミュニティデザイナーの資格取得を目指して３年間友達とともに協力し、熱心に取り組んだ証として与えるべきだということか。

大森氏

なかなか難しいことであるが、山形大学や新潟大学ではそのような評価にチャレンジしている。全国の高校がこのような評価のことで悩んでいるので三国高校もチャレンジしていったらいいのでは。

教頭

年間計画、評価は大変悩ましい所である。大岡先生は以前このことで問題提起されたが何かないか。

大岡

自己評価や振り返りのエビデンスをもとに自分で１～５の評価を自分でつけられるようになったらよいのではないか。

大森氏

生徒自身の中に変革があることに意味がある。自分自身で問題解決をしていけるようにしていって欲しい。